

成果の説明書

(氏名) 高橋 済	(学部) 経済学部
1 重要事項	
【研究活動】	
◆ 論文執筆	
① 自治体の保育所供給の戦略的相互参照行動仮説を地域別に検証した、“ Interactions among Local Governments over the Provision of Nursery Facilities: A Quasi-Experimental Approach”を執筆、査読誌に投稿したが、 掲載には至らなかった。	
② 論文①で取り上げた戦略的相互参照行動仮説について、その競争形態を識別す る研究、“On Strategic Behavior in the Provision Policies in Nursery Facilities: Resource-Flow or Yardstick?”を執筆作業を実施した。	
③ “A Study of Regional Sustainability in Japan: Migration, Economy, and Demographics”を執筆、日本経済学会春季大会での報告を申請し、受理された。	
◆ 研究報告 2023年1月に関西学院大学で開催された関西公共経済学研究会に て、論文①の報告を行い、多くのコメントを得た。	
【教育活動】	
◆ 現代経済入門Ⅰ・Ⅱ 政府系シンクタンクでの研究業務経験に基づき、それぞ れの授業において、前半で経済学(Ⅰはマクロ経済学・Ⅱはミクロ経済学)の基本 的な考え方を解説し、後半で具体的な社会経済のトピックを経済学により解釈す る授業を行った。専門用語の整理や教科書に対応した問題集の活用、teamsを用 いた課題設定など、学生が学習に取り組みやすい授業形式を模索した。	
◆ 中級マクロ経済学Ⅱ 本学におけるマクロ経済学のコースの一環として、金 融・財政政策及び発展的なトピック(動学モデル)を取り扱う講義を実施した。発 展的なトピックを学生が学習できるよう、数学補論や基礎的知識の復習等を授業 の冒頭で行い、これらをフォローした練習問題の解説も実施した。	
◆ 基礎演習 8名の学生を担当。著名な経済学者が執筆した経済書として、“国家 はなぜ衰退するのか権力・繁栄・貧困の起源(上・下)”(早川書房)を、各自が報告 する形式で輪読した。また、合間には文章の読み方、データ・論文の調べ方、ア カデミック・ライティングの要点などをフォローするレクチャーを行った。	
2 その他の事項	
◆ 地域貢献活動 群馬県立太田高等学校の学生1名の「総合的な探求の時間」に おける研究活動の支援を行い、1回のインタビュー、1回の書面回答によるコメ ントを実施した。	
◆ 社会貢献活動 財務省発行の広報誌『ファイナンス4月号に』、国内外の新型 コロナウイルス関連研究をサーベイした記事「感染症と経済学 -“3年目”を迎え て」を寄稿した。	

3 次年度以降の計画・抱負

【研究活動】

- ◆ 新規の研究事業として、自治体間での戦略的相互参照行動や空間経済学の研究で得られた知見を活かし、『国勢調査』のデータによる、地域間の労働者の人口移動に関する構造分析を開始する予定である。
- ◆ 論文執筆においては、引き続き、学会報告や投稿作業を通じて、研究の精緻化を行い、国内・国外の査読誌での既存研究の公刊に努めていく。
- ◆ 研究発表においては、執筆時点で今年度4月に東京大学(招待:論文①)、5月に新潟県立大学(招待:論文③)と日本経済学会春季大会での報告(論文③)が決定しており、以降も積極的に報告を行っていく予定である。

【教育活動】

- ◆ 教育活動全般に言えることであるが、学生のニーズの把握や試行錯誤を通じて、授業形式の改善に努めていく所存である。
- ◆ 中級マクロ経済学Ⅱにおいては、他のマクロ経済学のコースに準拠して、内容を大幅に改定する予定である。
- ◆ 演習Ⅰでは、輪読を引き続き行っていくほか、大学外での学習も開始することを考えている。

【その他の事項】

- ◆ 昨年同様に地域のニーズに応じて研究・教育活動を行うほか、財務省との研究活動も引き続き実施し、研究者としての特性を生かした多層的な社会貢献を行っていきたい。